

教科 科目名	地理歴史科	単位数(週あたりの授業時数)		3 単位
	日本史探究	履修学年(類型)	2 学年	普通科
教科書名(出版社名)		詳説 日本史(山川出版社)		

●学習到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容
1	4月	第1章 日本文化のあけぼの	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ③大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ④集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ⑤原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。
	5月	第2章 古墳とヤマト政権	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ④ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ⑤飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。
	6月	第3章 律令国家の形成	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ③律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ④平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ⑤律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ⑥天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。
	7月		⑦平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ⑧東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。
	8月		
2	9月	第4章 貴族政治の展開	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。 ③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。
	10月	第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進	⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩壊への対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたせた経過を考察する。 ⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。 ①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。
2	11月	第6章 武家政権の成立	①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ③承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ④武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ⑤モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ⑥非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ⑦庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。
	12月		⑧伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進化した背景を考察す

3	1月	第7章 武家社会の成長	<p>①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。</p> <p>②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。</p> <p>③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。</p> <p>④諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。</p> <p>⑤武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。</p> <p>⑥庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。</p>
	2月	第7章 武家社会の成長 第8章 近世の幕開け	<p>⑦応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。</p> <p>①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。</p> <p>②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。</p> <p>③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。</p> <p>④中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>
	3月	第9章 幕藩体制の成立と展開	<p>①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。</p> <p>②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。</p> <p>③幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。</p> <p>④被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。</p>

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができる。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想できる。	歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解ができる。
B	歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を概ね身につけることができる。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を概ね身につけている。	歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて概ね構想できる。	歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解が概ねできる。
C	歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができない。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができない。	歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想できない。	歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解ができない。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考・判断・表現を評価する。 ○ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とする。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、授業プリントの記述などの内容を評価のための資料とする。 ○ 単元ごとに行う自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とする。 		
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できる。また諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、比較互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察できる。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度がみられる
B	諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、また資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をおおむね身につけている。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、比較互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的におおむね考察できる。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を追究、解決しようとする態度がおおむねみられる

C	諸課題の形成に関わる近現代の歴史の理解に乏しい。また資料から様々な情報を調べまとめる技能を身につけることが難しい。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察することが難しい。	歴史の変化に関わる諸事象について、課題を追究、解決しようとする態度を見てとれない。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考・判断・表現を評価する。 ○ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とする。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、授業プリントの記述などの内容を評価のための資料とする。 ○ 单元ごとに行う自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とする。 		
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$